

# 宗教学科 カリキュラム・マップ(2020年度入学生)

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号						
							◎達成のために特に重要 ○達成のために重要						
							①	②	③	④	⑤	⑥	
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(宗教学)の学位を授与します。 ① 宗教学研究に必要な日本語および外国語の能力と情報収集力を身につける(技術) ② 天理教および世界のさまざまな宗教について、基礎的な知識を身につけて広い見識をもつことができる(知識) ③ 世界の諸宗教や天理教の基本的教理に関心をもち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考) ④ これまでに学んだ知識や研究の方法論を駆使して、宗教学研究に積極的に取り組むことができる(意欲) ⑤ 他者の信仰を理解するとともに多様性を尊重し、価値観を異にする他者と共に生きることができる(態度) ⑥ 地域社会や国内外各地において「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)											
天理教学概論1	講義	1	2	天理教学を学び研究する上で必要な基礎的な知識の習得を通して、教学研究の輪郭を把握する。	学問としての天理教学の立場と性格、研究領域と課題、教学研究の歩みと現状などについて講じるとともに、教学研究の根拠となる啓示原典「おふでさき」「みかぐらうた」「おさしづ」と準原典としての「こふき話」および「ひながた」、そして教義書である「教典」について概説する。	○	◎	○					
天理教学概論2	講義	1	2	天理教教理に関する基礎的な知識を習得し、教理と信仰について体系的に理解する。	天理教の神観、教祖の立場、救済観、世界観、人間観について、「元の神・美の神」、「月日のやしろ」、「つとめ」と「さづけ」、「かしのかりもの」、「いちれつきょうだい」、「ほこり」、「いんねん」と「たんのう」、「ひのきしん」などの教語と関連づけながら講義する。併せて、教会論や信仰論についても言及する。	○	◎	○					
天理教教祖伝概説1	講義	1	2	教祖伝を読み、教祖伝逸話篇も参照しながら、教祖の生涯を学ぶ。	教祖のひながたを深く学ぶことによって、その意味を正しく理解し、自分自身の生涯の指針として実際に役立てることができるようにする。			◎	○		○		
天理教教祖伝概説2	講義	1	2	教祖伝を読み、教祖伝逸話篇も参照しながら、教祖の生涯を学ぶ。	教祖のひながたを深く学ぶことによって、その意味を正しく理解し、自分自身の生涯の指針として実際に役立てることができるようにする。			◎	○		○		
宗教史概説1	講義	1	2	ユダヤ教・キリスト教・イスラームといういわゆる「アブラハムの宗教」の歴史的・思想的関連性について学ぶ。	ユダヤ教・キリスト教・イスラームという、共通の歴史的出自を持つ三つの一神教的伝統の歴史と思想の、基本的な事柄について学ぶ。特に、聖典、歴史、教義についての基本的知識の習得をめざす。			◎	○		○		
宗教史概説2	講義	1	2	東洋におけるヒンドゥー教と仏教の広がりについて歴史的に概観する。	ヒンドゥー教と仏教という二つの宗教伝統が、アジアでどのように受容され、その過程においてどのように変容していったのかを歴史的に概観する。			◎	○		○		
宗教学概論1	講義	2	2	宗教学研究に関わる知識と理解を深めるとともに、経験科学としての宗教学の立場と研究分野、方法論など、宗教学という学問の全体的な輪郭を把握する。	宗教学とはなにか、信仰とはなにか、といった課題について深く理解したうえで、宗教学という学問の成立過程の思想史的・文化史的背景について解説する。西洋における宗教学の学説史ばかりでなく、日本における「宗教学」の成立と展開についても習熟する。			○			◎		
宗教学概論2	講義	2	2	人間の生きる営みとしての「宗教」現象を学問的視点から捉えることを通じて、「宗教」の意味世界の広がりや深みに目を向けるとともに、「宗教的存在人間」としての人間についての認識と理解を深める。	近代宗教学の成立をめぐる事情をその歴史的背景から説き起こし、近代宗教学を代表する理論を紹介しながら批判的に検討し、宗教学研究が人間を理解するための手掛かりとして大きな意義を担っていることを理解する。			○			◎		
天理教原典学1概説	講義	2・3・4	2	「おふでさき」研究への手がかりを得るための準備を講義する。	まず、変体仮名のお歌になじむことから始め、その読み方を検討していく。次には、おふでさき執筆の目的、及びその内容についての検討。さらには、親神の救済計画における「よふぼく」の役割について理解する。			◎			○		
天理教原典学2概説	講義	2・3・4	2	みかぐらうたを教義書及び「つとめ」の地歌という観点から検討し、その内容の解釈を通して、天理教教理を概観する。	以下の各項目についての理解を深める。 1. みかぐらうたの成立の歴史的経緯 2. 原典(教義書)としてのみかぐらうた 3. みかぐらうた解釈本について 4. 各節の解釈			◎			○		
天理教原典学3概説	講義	2・3・4	2	「おさしづ」を中心に天理教原典の理解を深めることによって、天理教の信仰の奥行きを確かめなめる。	天理教原典である「おふでさき」「みかぐらうた」「おさしづ」、および「こふき話」について解題をしつつ、その位置を確かめ、とくに、神のことばである「おさしづ」について、体系的に理解する方法を考察し、じっさいに、おことばを読み味わうことによって、天理教の教理と信仰についての理解を深める。			◎			○		
天理教学特殊講義1	講義	2・3・4	2	天理教の教義を客観的な思想体系としてとらえ、その独自性・普遍性を明らかにしていく。	天理王命とはどのような神であるかを西洋の哲学的神学との対決を通して明らかにし、次いで親神、教祖、ちば、旬刻限の理を有機的連関において解釈しつつ、天理教における救済の構造を考察する。			○			◎		
天理教学特殊講義2	講義	2・3・4	2	天理教教義学とは、天理教学において、「最後(ため)の教え」の体系的な研究および理解をめざす研究領域である。この授業では、親神の啓示の真理を踏まえながら、現代の諸科学の研究成果を視野に入れて、天理教のコスモロジーを論証的あるいは体系的に探究する。	宗教学研究における神学あるいは神学としての学問的特徴、その位置と役割を理解したうえで、天理教学の研究領域とその方法を明らかにし、天理教学における教義学研究的意義を探究する。さらに、天理教のコスモロジーの構造を明らかにし、親神の呼称に込められた意味、および、かぐらづとめの意味構造を理解することによって、天理教の教義もつ現代の意義を探究する。				○		◎		

科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号						
						◎達成のために特に重要 ○達成のために重要						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
次のような知識や能力を備えた学生に学士(宗教学)の学位を授与します。 ① 宗教学研究に必要な日本語および外国語の能力と情報収集力を身につける(技術) ② 天理教および世界のさまざまな宗教について、基礎的な知識を身につけて広い見識をもつことができる(知識) ③ 世界の諸宗教や天理教の基本的教理に関心を持ち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考) ④ これまでに学んだ知識や研究の方法論を駆使して、宗教学研究に積極的に取り組むことができる(意欲) ⑤ 他者の信仰を理解するとともに多様性を尊重し、価値観を異にする他者と共に生きることができる(態度) ⑥ 地域社会や国内外各地において「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)												
天理教学特殊講義3	講義	2・3・4	2	天理教教義学とは、天理教学において、「最後(だめ)の教え」の体系的な研究および理解をめざす研究領域である。この授業では、親神の啓示の真理を踏まえながら、現代の諸科学の研究成果を視野に入れて、天理教のコスモロジーを論証的あるいは体系的に探究する。	まず、天理教学における天理教教義学の立場、および天理教のコスモロジーの本質構造を理解する。そのうえで、天理教の教祖論、人間観、世界観、倫理観などの特質について考察する。			○			◎	
天理教学特殊講義4	講義	2・3・4	2	今日の現代世界、あるいは日本社会における多様な問題に対し、天理教教理の視点からいかに応答・対応できるかについて考える。	今日の現代世界、あるいは日本社会における多様な問題の中から、特に宗教と精神性、生命倫理、家族などをめぐる諸問題を取り上げ、それぞれに対して天理教の教理からいかなる解釈や応答が可能かについて検討する。						◎	
天理教史特殊講義1	講義	2・3・4	2	天理教における信者の組織集団である教会について、その成立と変遷を歴史的に概観し、教義論として教会の本質を、組織論から教会の反省を、実践論として教会の役割を論ずる。	教会設立の経緯に見られる神意について考察し、教会に関わる種々の問題に対して下されたおさしづをもとにして、教会の本質、役割、使命について理解を深める。			◎			○	
天理教史特殊講義2	講義	2・3・4	2	天理教の教会史と教理史の展開を辿りながら、明治・大正・昭和初期における日本の社会状況に、天理教史を位置づけて理解する。	ご存命の教祖の思召をたずねる「信仰史」の立場から、近代日本における天理教の歴史について理解を深める。			◎	○		○	
天理教史特殊講義3	講義	2・3・4	2	日本、世界に広がった天理教の伝道を歴史的に把握し、将来の伝道活動を考える。	日本および世界各地の天理教伝道史を概観し、それぞれの地域における地理的問題を取りあげて考察する。受講者各人が自分の所属する教会や住んでいる地域を念頭におき、伝道史を学べるよう配慮する。						○	◎
宗教学特殊講義1	講義	2・3・4	2	「神秘主義」をテーマに、体験・言語・信仰といった宗教を考えるうえでの基本的問題についての理解を深め、豊かにする。	体験に偏ってきたこれまでの神秘主義研究の問題点を確かめたうえで、新たな「神秘主義」理解を目指す。実際にさまざまなテキストを読みながら、「神秘主義」を「語りえぬものを(それでもなお)語ろうとする」言葉の技として、繊細かつ大胆な言葉の運動として捉えたい。それはそのまま、私たちの「宗教」あるいは「信仰」理解をより豊かにすることにつながるはずである。			○			◎	
宗教学特殊講義2	講義	2・3・4	2	現代世界における宗教(現象)はわれわれに何を語り、われわれはそこから何を学ぶことができるのか。この授業では、宗教学というツールを使って、この大きな問題に取り組むための視点を学ぶ。	宗教学の基礎的な知識を学び、得られた視点をもちいて現代社会のさまざまな事例を理解する。宗教に関わる地球規模の出来事のみならず、身の回りで起こっている様々なことを宗教学の枠組みで理解できるようになることを目指す。			○			◎	
宗教学特殊講義3	講義	2・3・4	2	近代日本の成立について、「宗教」をめぐる言説空間の形成過程から考える。	明治以後の日本における、「宗教」をめぐる言説空間の形成過程を歴史的にたどりながら、国家神道体制という特殊なシステムのもとで確立された、近代日本の成立過程について理解を深める。			○			◎	
宗教学特殊講義4	講義	2・3・4	2	神の存在、宇宙における人間の位置、人格の不死などの宗教的論題を哲学的に研究する。	古代ギリシアから現代に至るまでの西洋哲学のいくつかの学説を検討し、西洋文明の基礎にある哲学的思考について理解を深める。			○			◎	
宗教史特殊講義1	講義	2・3・4	2	歴史的資料を手掛かりに、インド仏教史を概観する。	仏伝や碑文、歴史書などを手掛かりに仏教の源流を訪ね、インド仏教を史的に理解する。			○	◎			
宗教史特殊講義2	講義	2・3・4	2	日本における「仏教」の歴史と思想を学ぶ。	日本仏教の思想的展開をたどり、歴史を学ぶことによって、日本人の生活のなかに溶け込んでいる、身近な「仏教」の制度や習慣などについて理解を深める			○	◎			
宗教史特殊講義3	講義	2・3・4	2	西洋世界におけるキリスト教の歴史的展開(宗教改革以前まで)を概観する。	キリスト教という宗教が、現代の西洋世界の精神的基盤としてのみならず、現代世界における法・政治・経済といった広範な領域を背後から規定するものであることを理解する。			○	◎			
宗教史特殊講義4	講義	2・3・4	2	中世末期から近代初期にかけての西欧キリスト教(カトリック・プロテスタント)の歴史と思想を学ぶ。	中世末期から近代初期にかけての西欧キリスト教の歴史的展開を、カトリック宗教改革およびプロテスタント宗教改革を中心に思想的・社会的視点から通覧する。			○	◎			
宗教史特殊講義5	講義	2・3・4	2	イスラームの成立からアッパース朝滅亡までのイスラーム社会形成の歴史を概観する。	「宗教的なもの」と「世俗的なもの」を一元とするイスラーム社会の特殊性を理解する。			○	◎			

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号							
						◎達成のために特に重要							
						○達成のために重要							
①	②	③	④	⑤	⑥								
次のような知識や能力を備えた学生に学士(宗教学)の学位を授与します。 ① 宗教学研究に必要な日本語および外国語の能力と情報収集力を身につける(技術) ② 天理教および世界のさまざまな宗教について、基礎的な知識を身につけて広い見識をもつことができる(知識) ③ 世界の諸宗教や天理教の基本的教理に関心を持ち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考) ④ これまでに学んだ知識や研究の方法論を駆使して、宗教学研究に積極的に取り組むことができる(意欲) ⑤ 他者の信仰を理解するとともに多様性を尊重し、価値観を異にする他者と共に生きることができる(態度) ⑥ 地域社会や国内外各地において「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)													
宗教史特殊講義6	講義	2・3・4	2	イスラームの思想的側面を歴史的に概観することによって、唯一神への絶対的な帰依信仰を核とするイスラーム宗教文化の興行きの深さと特異性について理解を深める。	イスラーム文化を根底で支えている「クルアーン」と預言者ムハンマドの言行録について解説したのち、シャリーアの特質、イスラーム神学の発生と展開、特にムアタズィヤ派とアシュアリー派の主要な神学思想、スーフイズムの発生と大衆化など、イスラーム思想の全体像を伝統と革新という視点から概説する。併せて近代の現実主義と原理主義的潮流に触れながら現代イスラームの動向について理解を深める。		○	◎					
宗教科指導法1	講義	3	2	中学校及び高等学校における宗教科の教員資格免許の取得を目指す者を対象に、宗教科教育の理論と実践について学ぶとともに、宗教を学び、教えることの意味について考え、その心構えと姿勢を養う。	宗教を教科として教えることの意味、とくに学校教育の現場で教えることの意味について学習し、教科科目の一つとして「天理教」を教授することの意味について考える。また、教科としての「天理教」の内容や教授方法の特色についても指導する。			◎			○		
宗教科指導法2	講義	3	2	中学校および高等学校の教科「宗教」の教員資格免許取得をめざす者を対象として、基本的な教授法や技法および宗教科教育の理論と実際について学ぶとともに、特に宗教系私立学校において宗教を教えることの意味を考慮しながら、宗教科教員をめざす者としての自覚を養い、実際の授業に必要な技能を会得する。	宗教教育全般について概説したあと、教科教育の理論と実際、学習指導案作成の基本的な事柄などについて解説する。その後、天理学園の中・高校における宗教科教育を想定して、受講生自身が、自ら作成した学習指導案にもとづきながら、実際に50分間の模擬授業を行い、その内容および授業方法などについて相互に評価し合い、問題点や課題などについて討議する。			◎			○		
宗教科指導法3	講義	3	2	中等教育機関(中学・高校)における宗教科の教員免許取得を目指す学生を対象とし、宗教科教育の理念と実践について学ぶ。	この授業では特に、天理教管内の中学校・高等学校における宗教科を想定して授業を行う。内容的には『天理教教祖伝』および『天理教教典』に絞り、毎回範囲を決めて、受講生に模擬授業を行ってもらう。			◎			○		
宗教科指導法4	講義	3	2	中学校・高等学校における「宗教科」の教員資格免許取得を目指す学生を対象に、宗教科教育の理論と実際について講じる。学生が広い視野をもって、「宗教科」の授業ができるようになることを目的とする。	学校教育の場における宗教教育の意義および位置付けを確認し、中学校・高等学校の生徒に宗教について授業を行うさい、実際にどこまでの知識が必要であり、どのような心構えで行わねばならないか、講義を通して学び、模擬授業を介して身に付けていく。			◎			○		
宗教研究基礎演習	演習	1	2	宗教学研究(宗教学・神学/教学)にとつての基礎的な知識や諸概念を習得しながら、大学での学習に不可欠な文章読解能力と思考力を養う。	担当教員の指導のもとでテキストを読み進めながら、宗教学研究についての理解を深めるとともに、各自の意見を授業中に発表し合い、また検討を重ねることを通じて、宗教学研究に必要な視点や思考法を身に付ける。	◎	○						
宗教研究演習1	演習	3	2	2年次までに修得した世界の宗教に関する基礎知識や宗教学研究・天理教研究の理論をもとに、主体的な研究課題に取り組む。	各教員別に指定されたテキストの読解や課題への取り組みを通して、宗教学研究への理解を深める。					◎		○	
宗教研究演習2	演習	3	2	2年次までに修得した世界の宗教に関する基礎知識や宗教学研究・天理教研究の理論をもとに、主体的な研究課題に取り組む。	各教員別に指定されたテキストの読解や課題への取り組みを通して、宗教学研究への理解を深める。					◎		○	
宗教課題演習1	演習	4	2	3年次までに修得した世界の宗教に関する知識や宗教学研究・天理教研究の理論をもとに、具体的な問題関心にもとづく調査・研究を行う。	教員別の個別指導のもとで、卒業論文執筆のための準備を行ない、大学の基準を満たす卒業論文を完成させる。					◎		○	
宗教課題演習2	演習	4	2	3年次までに修得した世界の宗教に関する知識や宗教学研究・天理教研究の理論をもとに、具体的な問題関心にもとづく調査・研究を行う。	教員別の個別指導のもとで、卒業論文執筆のための準備を行ない、大学の基準を満たす卒業論文を完成させる。					◎		○	
卒業論文		4	4	3年次までに修得した世界の宗教に関する知識や宗教学研究・天理教研究の理論をもとに、具体的な問題関心にもとづく調査・研究を行ない、卒業論文を完成させる。	教員別の個別指導のもとで、卒業論文執筆のための準備を行ない、大学の基準を満たす卒業論文を完成させて、期日内に提出させる。					◎		○	